

**第1回秦野市伊勢原市環境衛生組合火葬炉事業者選定委員会  
及び作業部会要旨**

- 1 日 時 平成25年12月11日(水)  
午前9時58分から午前11時55分まで
  
- 2 場 所 秦野市伊勢原市環境衛生組合（以下「二市組合」という。）  
はだのクリーンセンター小会議室
  
- 3 出席者
  - (1) 委員7名（うち作業部会員兼務3名）
  - (2) 作業部会員6名（うち委員兼務3名）
  - (3) 事務局
    - ア ㈱綜企画設計4名
    - イ 二市組合施設課職員1名
  
- 4 内 容
  - (1) 事務局長あいさつ
  - (2) 自己紹介
  - (3) 議題
    - ア 設置要綱について
      - ・ 火葬炉事業者選定委員会設置要綱を事務局から説明した。
    - イ 委員長、副委員長の選任について
      - ・ 委員の互選により委員長には秦野市環境産業部長が、副委員長には伊勢原市経済環境部長が、また、作業部会員の互選により作業部会長には二市組合施設課長が選任された。
    - ウ 委員会の進め方について
      - (ア) 議事録、審査結果の公開について
        - 事務局から取扱い案を説明後、次のとおり決定された。
        - ・ 会議は非公開とする。
        - ・ 議事録要旨は委員名を省き公開する。
        - ・ 審査結果は、選定事業者以外は事業者名を伏せて総合点を公開す

る。

#### (イ) スケジュールについて

- ・ 6月上旬に選定委員会の検討結果を正副組合長に報告するまでの主なスケジュールとして、今回を含めた4回の委員会と3回の作業部会の審議内容等について説明し了承された。
- ・ 選定委員会は事業者を評価して選定すること、そのための資料を作業部会が作成することを確認した。

#### エ 火葬炉事業者の選定について

- ・ 事務局から最新の火葬炉設備の基本構成と火葬炉事業者選定方式（プロポーザル方式と入札方式について）及びプロポーザル方式の手順、他の自治体での火葬炉設備選定評価基準の例を説明した。
- ・ 委員から応募件数の想定について質問があり、事務局から全国的に火葬炉の新設ができる事業者は6社程度であると説明した。
- ・ 委員から選定方式の事例では、7～8割の自治体がメリットが大きいプロポーザル方式を採用しているが、なぜ入札方式が選定されることもあるのかとの質問に対し、事務局から価格のみで決定する公平さを求めていると思われるが、仕様書の統一ができないことや維持管理の問題で後に負担が生じる事例があることを説明した。
- ・ 委員から募集公告の時に、公表する資料は何かとの質問があり、事務局から公告文書、プロポーザル要領書、火葬炉設備における基本的事項を公表することを説明した。
- ・ 委員から現状の秦野斎場と新たな施設での火葬設備の違いについての質問があり、事務局から冷却前室、排ガス冷却装置、集じん装置を新たに設けること、火葬炉の型式を棺台車から柩をおろし、柩のみ炉内に収め火葬するロストル式から、台車ごと炉内に収め火葬する台車式に変えること、バーナー等の操作を手動式から自動式に変えることを説明した。
- ・ 委員から総合評価方式で行っている火葬炉選定の有無について質問があり、事務局から事例はないことを説明した。

#### オ 募集要項等について

- ・ 事務局から公告案として参加資格要件、選考方法、日程を説明した。
- ・ 委員から火葬炉設備については法的な基準が無く、各事業者に特色があるとのことであるが、明らかな良さ、特色等は分かるのかとの質

問があり、事務局から火葬炉を設置する空間や高さ、炉に使用する耐火材等の素材や使用個所の違いなど築炉構成が異なること、耐久性にも差が出ることを説明した。

- ・ 委員から参加資格において実績要件を設けることにより参加事業者が制限されるため、築炉工事等の経験に関する条件については、十分検討したいとの意見があった。

#### カ 審査方法について

- ・ 事務局から評価基準、評価方法については、できるだけ客観的に評価できるようなものを検討することを説明した。
- ・ 事務局から多数の火葬炉事業者は炉専門だけでなく、他の業種、例えば建築工事業等複数の建設業法の許可を取得していることを説明した。
- ・ 委員から定量で判断できるものについては明瞭に比較できるが、定性的な項目における評価については何をもって適正と判断するのか、評価基準づくりの際にきちんと整理するよう意見があり、事務局からできるだけ客観的な材料で定量的に判断できるよう整理したいとの説明をした。
- ・ 委員から評価において平均や合計の点数で行うが、1項目が性能未達で明らかにC点であっても、他はA点である場合、総合得点が合計で多くなる。この場合のC点の評価方法及び失格となる絶対条件の考え方を議論したいとの意見があった。

#### キ 今後の日程について

- ・ 事務局から今後の日程について次のとおり説明した。  
第2回委員会は2月下旬、第3回委員会は5月中旬、第4回委員会は5月下旬に開催する予定。
- ・ 第2回作業部会は、1月16日木曜日、午後1時30分から開催する予定。

### 5 その他

- ・ 事務局から近年竣工した施設の視察について提案したところ、今後の進捗の中で必要に応じて実施することとした。